

上場会社名 サイオステクノロジー株式会社
 代表者 代表取締役社長 喜多 伸夫
 (コード番号 3744)
 問合せ先責任者 執行役員(財務経理担当) 小林 徳太郎
 (TEL 03-6860-5105)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月2日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,610	△20	△30	△60	△685.60
今回発表予想(B)	2,854	43	40	△19	△224.57
増減額(B-A)	244	63	70	40	
増減率(%)	9.4	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	2,904	△88	△78	△116	△1,314.70

修正の理由

当第2四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く事業環境は、予算策定時の予想通り企業の情報化投資が収縮する厳しい状況でしたが、オープンソースソフトウェアを利用したコスト削減に関する企業の底堅い情報化投資や、クラウドコンピューティング(*1)への関心が高まりを見せ始めました。このような環境の中、グループ全社を挙げた営業努力とコスト削減努力を行った結果、平成21年2月2日付公表の平成21年12月期第2四半期連結累計期間の業績予想を上回る見込みとなりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高については、前回発表予想から244百万円上回る2,854百万円に修正いたします。日本国内売上高は、当社グループ中期事業戦略に基づく重点製品である「LifeKeeper」(*2)が堅調であったほか、クラウドコンピューティング関連サービスの「SIOS Integration for Google Apps」(*3)が好調に推移しました。また、「Red Hat Enterprise Linux」(*4)が予想以上の推移となりました。一方、米国売上高は予想を若干下回る水準で推移しました。

当第2四半期連結累計期間の売上原価、販売費及び一般管理費については、前期からコスト削減を継続しており、予想通りの効果が得られる見込みです。

これらにより、当第2四半期連結累計期間の営業利益は43百万円(前回発表予想から63百万円上回る)、経常利益は40百万円(前回発表予想から70百万円上回る)、四半期純損失は19百万円(前回発表予想から40百万円上回る)に修正いたします。

なお、通期の業績予想につきましては、第3四半期以降の事業環境が依然として不透明であるため、現時点での修正は行っておりません。今後の動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合には、速やかに公表いたします。

(*1)クラウドコンピューティング

コンピュータ処理をネットワーク(通常はインターネット)経由で、サービスとして利用できる新しいコンピュータの利用形態。

(*2)LifeKeeper

SteelEye社の開発による、本番稼働のサーバーとは別に、同じ環境の予備サーバーを待機させ、万が一の障害の際には自動的に予備サーバーに業務を引き継がせる役割を担うHA(ハイアベイラビリティ)クラスターソフトウェア。

(*3)SIOS Integration for Google Apps

Googleが提供する、メール、インスタントメッセージ、スケジュール管理、ワープロ・表計算等をパッケージにしたホスティング型アプリケーションサービスGoogle Appsとお客様の既存の情報システムを直接連携させるサービス。

(*4)Red Hat Enterprise Linux

LinuxOSの世界最大ディストリビューターであるRed Hat, Inc.の開発によるLinuxOS。

(注) 上記の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。